

なごや宇宙医学・歯学研究所キックオフシンポジウムを開催しました

日本の航空宇宙産業の中核地域でもある名古屋圏として本学に設立された「なごや宇宙医学・歯学研究所」は、極限環境における人体の変化を探究し、地上医療の課題解決にも寄与する先端研究拠点です。

6月26日に、桜山キャンパス本部棟4階大ホールにて、「なごや宇宙医学・歯学研究所 キックオフシンポジウム」を開催しました。当日は、131名の方にご参加いただき、活発な議論が交わされました。

郡健二郎理事長から、宇宙飛行士の腎結石リスク低減に向けた研究や、宇宙における生殖医療など、泌尿器科医としての研究経験をもとに展開してきた国際共同研究を紹介されました。歯科医師で医学研究科大学院生の藤田櫻子氏は、NASAでの研修経験、iPS細胞による歯の再生や無重力下での歯科医療の可能性と未来を語り、分野横断的な挑戦の意義を示しました。宇宙をテーマにした学内外の研究者が協力して、近未来に迫る宇宙開発での医療に貢献してまいります。



発表者の集合写真



キックオフシンポジウムの様子

プログラム

司会・挨拶 安井孝周（なごや宇宙医学・歯学研究所 所長）

講演1「泌尿器科医から見た宇宙医学の今昔物語」

講師：郡 健二郎 理事長

座長：前田 初彦 教授（愛知学院大学歯学研究科）

講演2「宇宙歯科研究の新展開」

講師：藤田 櫻子 医学研究科博士課程

座長：岡田 淳志 准教授

7月18日に院内ICLS講習会を開催しました

当院では2019年から毎年7月に、研修医を対象にICLS講習会（心停止に対する発症10分間で行うべき蘇生法）を行ってまいりました。院内からの需要の高まりを受け、2023年から院内の医療従事者向けに年2回（7月と12月）開催しております。

致死的な急変はいつでもどこでも起こり得ます。この講習会はこのような状況に遭遇した場合に落ち着いて対処できるための講習会です。

今回参加した28名の受講生（研修医・看護師）は、院内内外の12名のインストラクター（医師・看護師・救急救命士）の熱くバイタリティーあふれる指導のもとで、楽しく学ぶ事ができ、実り多い講習会になったと感じます。

ICLSコースは「蘇生法」のみならず、チーム内での円滑なコミュニケーションの取り方や簡素で迅速な意思疎通の方法、多職種での協力体制やチームとしての対応方法等、多くの学びがあります。

そしてこの学びは「教える側の立場で参加する」とより深くなると考えており、次回12月19日の講習会でも受講生のみならず、インストラクターを目指して多くの医療従事者が参加する事を期待しております。

【コースディレクター 救急科 服部友紀】



ICLS講習会の様子



名古屋市立大学病院「さくら基金」のご案内

名古屋市立大学病院では、広くご寄附の協力を仰ぎ、「笑顔と感動」への架け橋として役立てることを目的としてさくら基金を設置しております。

皆様から寄せられた寄附金は、患者さんはもちろんのこと、職員などの当院に携わる方の視点も取り入れながら医療の充実を図るために活用させていただきます。

何卒、当さくら基金設置の趣旨をご理解いただき、ご寄附のお力添えを賜りますよう、心からお願い申し上げます。

さくら基金についてのお問い合わせ先

経営課経営係さくら基金担当

Tel:052-858-7529（直通）

受付時間 月曜日から金曜日の
午前9時から午後5時まで

<https://w3hosp.med.nagoya-cu.ac.jp/for-patient/sakurafund/>



さくらほっと NEWS

vol.68
令和7年秋号



協定締結式の様子

ハルリム大学との看護部間交流協定の締結、
国際合同シンポジウムを開催しました…2

名市大病院のチカラ Vol.36 ……3

なごや宇宙医学・歯学研究所キックオフシンポジウムを開催しました…4

7月18日に院内ICLS講習会を開催しました…4

名古屋市立大学病院「さくら基金」のご案内…4

救急災害医療センター 2026年6月開棟！！

開棟
まで

あと243日

※2025.10.1時点



ハルリム大学との看護部間交流協定の締結、 国際合同シンポジウムを開催しました

イベントの概要

2025年5月28日から31日まで、本学の海外拠点校である韓国・ハルリム大学から、ユン理事長、チョイ総長、キム医療院長、ユ医学研究科長をはじめとする18名の一行が来学し、3日間にわたって交流イベントを実施しました。ハルリム大学とは2006年に大学間交流協定を締結して以来、学術交流や学生交流を積極的に行っています。

ハルリム大学は、5つの附属病院（ハルリム大学メディカルセンター）を擁し、統合電子カルテシステムをはじめとする先進的な医療DXを導入しています。2023年の訪韓時には、附属病院のひとつである東灘聖心病院を見学し、その高度な技術に深い感銘を受けました。

協定締結式について

今回はハルリム大学一行を本学に迎え、5月29日には両附属病院間で「看護師国際交流に関する協定」を締結しました。本協定は、双方の看護師が短期研修を通じて派遣される制度を中心に、医療施設の視察や文化交流活動など、実践的な連携を図ることにより、医療・看護の質の向上と人材育成を目的とするものです。ハルリム大学メディカルセンターが有する医療DXの事例やノウハウを取り入れることで、本学附属病院群における看護実践および医療サービスの質の向上にとどまらず、日本国内における看護師のタスクシフトや働き方改革といった課題にも貢献できるものと考えています。

シンポジウムについて

また、同日には「将来の医療と看護のパラダイム変化～AI、ロボット、高齢化医療～」をテーマに、第5回名古屋市立大学・ハルリム大学国際合同シンポジウムを開催しました。午前の部では看護学研究科から「超高齢社会における看護師の役割拡大」や「日本におけるナースプラクティショナーの現状と将来」など、午後の部では医学研究科から「AIを活用したがん検出や脳神経外科での応用」、「CNS薬の再開発、記憶回復の神経回路、AIによるCPR訓練」など、計13名の研究者による最先端の研究成果の発表と活発な意見交換が行われました。参加者は300名を超え、盛会のうちに閉幕しました。

その他の企画

協定締結やシンポジウムに加え、国際交流の一環として5月28日には徳川美術館を訪問し、学芸員の方からの解説を受けながら、名品コレクションをはじめとする展示を鑑賞していただきました。シンポジウム翌日には、ボランティアガイドの案内のもと犬山城を訪れ、木曾川を一望する天守閣からの眺望を堪能するなど、東海地方の名所もご紹介することができました。

さらに、シンポジウムのテーマのひとつである「高齢化医療」に関連し、大型デイサービスセンター・サンサンリゾート新栄も訪問し、日本における高齢者福祉のあり方について視察の機会を設けました。

今後の展望

両国が抱える医療課題には多くの共通点があり、それを再認識する機会ともなりました。この経験をもとに、今後も両大学間での研究・教育活動の充実、そして医療水準のさらなる向上を目指し、さらなる交流の深化を図りたいと考えています。



ハルリム大学一行と本学関係者(犬山城にて)

名市大病院のチカラ Vol.36

リウマチ・膠原病内科

全身を診る眼と最先端の治療で挑む

関節リウマチや全身性エリテマトーデスをはじめとする膠原病は、関節や筋肉の他、皮膚・肺・腎臓・神経など多臓器に影響を及ぼす全身性疾患です。名古屋市立大学病院 リウマチ・膠原病内科では、免疫や炎症に関する専門知識と豊富な臨床経験をもとに、早期診断と適切な治療で、寛解（症状のない状態）を目指す医療を展開しています。

私たちは患者さんを中心に据え、関連する診療科と密に連携したチーム医療を行い、重症化した全身病態にも病院全体の力で対応しています。市立大学病院と西部医療センターを拠点に、東部医療センター、みどり市民病院、みらい光生病院などの大学附属病院群のほか、豊川市民病院、JA厚生連海南病院、大同病院にも専門医を派遣し、県内や周辺の地域医療にも貢献しています。

近年は病気の仕組みの解明が進み、効果の高い治療薬が次々と登場しています。私たちは、治療薬の特性を活かして、より多くの患者さんが寛

解を達成できるよう努めています。同時に、長期にわたる維持治療では、副作用や医療費に配慮した無理のない治療で、安定した状態を保てるよう心掛けています。さらに病状が落ち着いた患者さんには、通院負担を減らすため、近隣のクリニックと連携して維持治療を行っています。

今後とも、患者さんやその家族の支えになる質の高い医療を提供できるよう精進してまいります。



リウマチ膠原病内科スタッフ

睡眠医療センター

『Good Sleep Center=ぐっすりセンター』

当センターは2011年に設立され、日本睡眠学会による認定A施設（睡眠障害の国際的診断分類の診断カテゴリー全般を対象とする施設）に認定されています。良質な睡眠（ぐっすり眠る）を目標とし、睡眠医療センターの施設名をGood Sleep Centerとしました。愛称は『ぐっすりセンター』です。当センターは耳鼻咽喉科医で運営しており閉塞型睡眠時無呼吸(OSA)を中心に地域連携を重視した診療を行っています。地域の医療機関から患者さんを当院へご紹介いただいてCPAP療法の導入や管理を行い、安定した患者さんは当院から地域の医療機関へご紹介しております。また、成人や小児のOSA患者さんに対する咽頭手術（扁桃摘出術や咽頭形成術、アデノイド切除術など）を実施しております。咽頭形成術については従来法（UPPP）ではなく、快眠外科手術で高名な日本睡眠学会副理事長の千葉伸太郎先生に直接ご指導

いただきCWICKs法で施行しております。肥満症治療センターや口腔外科とも連携しており、肥満減量手術を含む総合的な肥満症治療や口腔内装置(OSAに対するマウスピース治療)作製もご提案しております。口腔内装置は2018年から専任の歯科医師の赴任により以前を上回る成績が得られております。また、質の高い睡眠医療情報を提供のため市民公開講座も行っておりますので、ぜひご参加ください。



睡眠医療センタースタッフ（医師および検査技師）